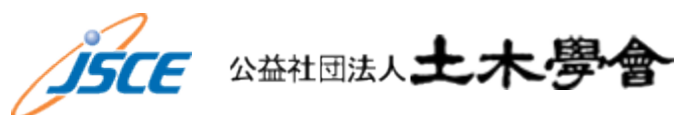


JSCE2015

— あらゆる境界をひらき、市民生活の質向上を目指す —

2014年11月



JAPAN SOCIETY OF CIVIL ENGINEERS

はじめに

土木学会は、土木工学の進歩及び土木事業の発達並びに土木技術者の資質の向上を図り、もって学術文化の進展と社会の発展に寄与することを目的としています（定款第3条）。その目的を達成するために、学会が5年ごとに策定している活動目標と行動計画（アクションプラン）が「JSCE20XX」です。

第一回目は、「JSCE2000」として1998年に策定されました。第二回目は、「JSCE2005－土木学会の改革策－社会への貢献と連携機能の充実」として2003年に策定されました。第三回目は、「JSCE2010－社会と世界に活かそう土木学会の技術力・人間力－」として2008年に策定され、土木学会の3つの使命と具備すべき9つの機能が明示されました。また、土木界や土木学会を取り巻く課題を整理し、各策定時点での状況を考慮した活動目標と行動計画が示され、その行動計画に基づき土木学会の運営の充実と各部門・委員会が精力的な活動をしています。

今回の「JSCE2015」は、①土木学会が2011年に公益を目的として事業を行う公益社団法人となったこと、②2014年に創立100周年を迎え、社会の発展とともに日本におけるインフラの役割は、これまでの100年から変化していくことが想像されること、③東日本大震災などの災害やインフラの機能劣化などの問題に対しレジリエントで持続可能な社会の構築が求められていること、など総合学問である土木工学を強く意識し各種問題に土木学会として向き合い、直近に解決すべき問題や将来にわたって継続的に検討すべき問題を取りまとめました。また、土木のフレームを定義し、人間が経済的な充足感だけでない幸福を感じられるような社会を、ハードとソフトのインフラでどのように達成するかを体系化しました。さらに、JSCE2010では顧客は「会員」でしたが、公益社団法人となったことに加え、東日本大震災による被害に直面し、専門家が積極的に社会活動に関与し、社会の問題を様々な社会セクターと一緒に解決することが求められるようになってきたことから、究極の「顧客（クライアント）」は「市民」であるとの定義の大きな転換を行いました。このようなことから、サブタイトルを「あらゆる境界をひらき、市民生活の質向上を目指す」として、従来の物理的・非物理的境界をこえた活動を行っていくための第一歩とも位置づけました。なお、JSCE2015と同時期に策定した「社会と土木の100年ビジョン」では、土木学会に留まらない土木分野の将来ビジョンを示していることから、同時に境界をひらいても、その対象とする範囲や時間の差異を踏まえ、サブタイトルを「あらゆる境界をひらき、持続可能な社会の礎を築く」としています。

JSCE2015の策定に際しては、企画委員会にワーキンググループを設置し、先ずJSCE2010の中間評価の一環として、外部有識者ヒアリングおよび有識者会議を行い、その分析結果をシナリオ化して得られたキーワードの属性を構造化しました。その上で企画委員会で素案を作成し、ウェブを通じた会員の意見、各支部の意見、学会内各部門の意見を聴取することにより、原案を作成して、理事会での審議を経て2014年11月に策定しました。

JSCE2015は、5年ごとに策定される土木学会の活動目標と行動計画です。このJSCE2015

では、社会とインフラの現状から概観した20年～30年の重点目標とそれに向けての5年間の重点課題を提示しました。また、JSCE2010で定義された土木学会の3つの使命と具備すべき9つの機能は、直近で特に取り組むべき重点課題とは別に継続的に行うべき事項であり、現状に合った若干の見直しをして、評価基準も含め提示しました。各年度の事業の実施に際しては、各部門が年度ごとに具体的な事業計画を立案・実行し、その成果を自己評価し、次年度の事業計画立案に反映するマネジメントシステムによって管理することにしていきます。

公益社団法人 土木学会会長 磯部 雅彦
企画部門主査理事 企画委員会委員長 小林 潔司

目 次

はじめに

1.	JSCE2015策定方針と策定プロセス	1
1. 1	策定方針	1
1. 2	策定プロセス	4
1. 3	JSCE2010 の達成度評価	4
1. 4	計画期間	6
2.	社会と自然環境およびその中にある土木と土木学会の推移	7
2. 1	社会の推移	7
2. 2	自然環境の推移	8
2. 3	土木界の推移	9
2. 4	JSCE2010 期間中（2008～2014 年度）の土木学会の主な活動と課題	11
3.	土木学会の顧客（クライアント）の再定義	14
4.	中期重点目標	15
4. 1	中期的未来に関わる社会事象と土木学会の重点目標	15
4. 2	安全で安心して生活できる持続性の高い国土再構成への提言	16
4. 3	世界各国が安定的に発展できる国土形成への提言	16
4. 4	公正な立場からの専門的知見の発信	17
4. 5	社会インフラ技術者の育成と社会的認知の啓発	17
5.	JSCE2015重点課題	19
5. 1	震災からの復興と防災・減災のための基盤（ハード・ソフト）構築	19
5. 2	福島第一原子力発電所事故の対策のための土木技術の集約	19
5. 3	インフラの機能維持・改善・新機能付加と次世代負担の低減・ 分担システムの構築	19
5. 4	地球規模の課題への対応	20
5. 5	大規模イベントとインフラ・空間整備への対応	20
5. 6	次世代技術者の育成と活用	20
5. 7	国際的技術価値移転の推進	20
5. 8	価値ある情報発信と情報収集機能の構築と運用	21
5. 9	他機関・他分野との連携	21
5. 10	学会内活動の有機的結合とその評価	21
6.	土木学会の3つの使命と具備すべき9つの機能	22
6. 1	取組みの継続性	22
6. 2	学術・技術の進歩への貢献	23
6. 3	国内・国際社会に対する責任・活動	24
6. 4	技術者資質と会員満足度の向上	25

7. JSCE2015達成のための活動評価	28
-----------------------	----

参考資料：

1. JSCE20XX の重点課題および土木学会の3つの使命と具備すべき9つの機能	参 1
2. 土木学会見える化データ 2013	参 5
3. 土木技術者・土木学会に対する外部ヒアリング結果要旨	参 20
4. JSCE2010 各部門自己評価結果	参 30
5. JSCE2015 重点課題アクションプラン	参 47
6. JSCE2015 土木学会の3つの使命と具備すべき9つの機能のアクションプラン	参 76